CSW68 サイドイベント報告書

2024 年 3 月 15 日（金）21 時～22 時 30 分（JST）、8:00～9:30 am（EST）
オンライン実施

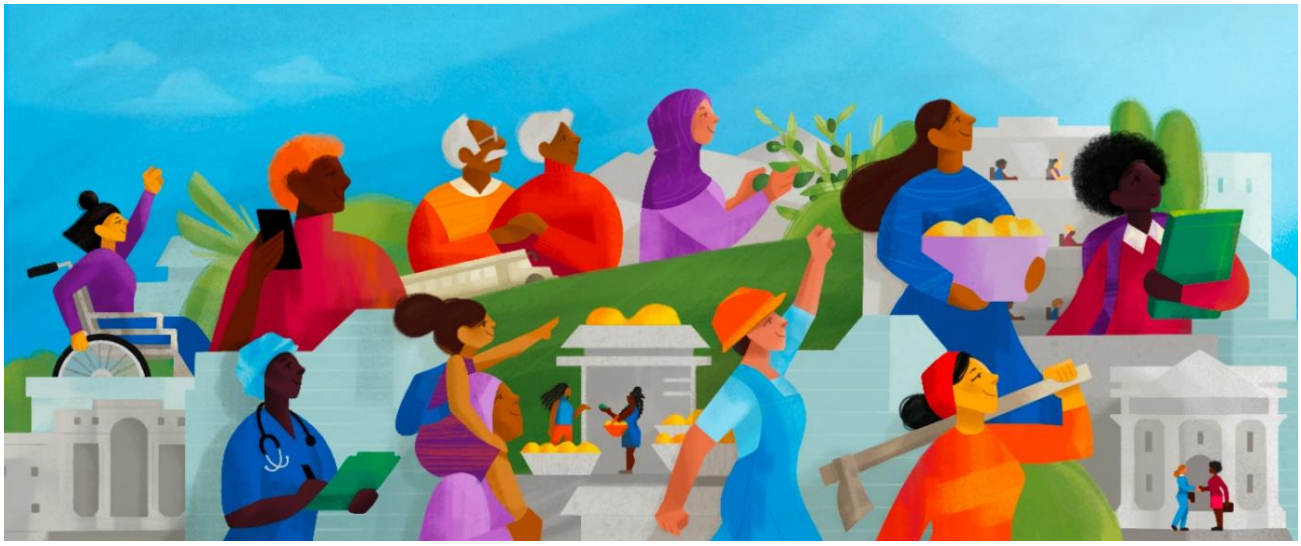
共催

国際連合日本政府代表部（国連代表部）

国連 NGO 国内女性委員会

国際婦人年連絡会

JAWW（日本女性監視機構）



はじめに

本報告書は、第 68 回国連女性の地委員会（CSW68）において、2024 年 3 月 15 日、国際連合日本政府代表部（国連代表部）と国連 NGO 国内女性委員会、国際婦人年連絡会、JAWW（日本女性監視機構）の NGO3 団体（以下 3 NGO）が共催したサイドイベントの実施の記録です。

本書を作成する JAWW は、1995 年北京で開催された国連第 4 回世界女性会議から 5 年後に開催された、国連特別総会「女性 2000 年会議」に向けて、オルタナティブレポートを作成した、日本の「NGO レポートをつくる会」のメンバーが中心となって、2001 年に新たに設立された全国的なネットワーク団体です。ジェンダー平等を基礎とした女性の 地位向上の推進をめざして国内外で活動することを目的としています。

サイドイベントは、CSW の会期中に国連構内で、各国政府、国連機関、NGO などが共同で開催するもので、CSW68 の場合、合計 270 近くものサイドイベントが開催されました。3 NGO は、2009 年以降、国連代表部と協力しながら、ほぼ毎回 CSW の会期中サイドイベントを開催して来ました。3 NGO はネットワーク団体ですので、それぞれの傘下の会員団体や関係団体を合わせれば 40 近くなります。

3 NGO は CSW でのサイドイベントの他にも、外務大臣に対し、CSW の日本代表団に NGO の代表を加えること要望し、実現するなどの成果を上げてきています。近年ではユースの代表を含めることを要請し、CSW 日本代表団にユース代表も加わるようになり活躍しています。CSW68 ではさらにユース代表の参加にかかる費用の支援も要望しています。また、3 NGO は、CSW68 の合意結論のゼロドラフトに対しても、NGO からの意見をまとめて提出しました。

3 団体と国連代表部共催のサイドイベントは、例年、CSW の優先テーマに沿って、日本および世界のジェンダー平等の現状と取組みを踏まえ、課題を明らかにし、広い視点に立って行動を提起して来ました。CSW68 の優先テーマは “Accelerating the achievement of gender equality and the empowerment of all women and girls by addressing poverty and strengthening institutions and financing with a gender perspective” （「ジェンダーの視点からの貧困撲滅、機構強化、資金動員によるジェンダー平等達成と女性・女児のエンパワーメントの加速」（政府訳））です。

CSW68 のサイドイベントでは、CSW に先だって開催された専門家会合に招かれ、意見を述べられた岡山大学の山本由美子さんにモデレーターをお願いすることができました。そして、3 人の経験豊かなパネリストからは、日本、スリランカ、グアテマラという、地理的にも経済的にも異なる国の取組みについての知見を共有いただくとともに、今後の方向について多くのお示唆を得ることができました。この報告書を通して、サイドイベントで議論の様子が伝わればうれしく思います。

目　次

はじめに―報告書作成に当たって			1
目次			2
サイドイベント プログラム			3
開会にあたって	JAWW（日本女性監視機構）代表	浅野万里子	4
開会挨拶	国際連合日本政府代表部大使・次席常駐代表	山中　修	6
サイドイベントの趣旨と成果	岡山大学准教授	山本由美子	8
パネリストの報告概要			11
		松元ちえ	12
		Sepali Kottegoda（セパリ・コッテゴダ）	13
		塚本明広	14
閉会挨拶	国連 NGO 国内女性委員会 CSW 担当幹事	紙谷雅子	15
資料集			17
フライヤー			18
国連サイト			19
Concept note			20
企画書			21
投影資料			23
参加者とアンケートの結果			47
NGO 3 団体の概要			48
実施の記録			49
おわりに			52

サイドイベント プログラム

開会にあたって　　浅野万里子　JAWW（日本女性監視機構）代表

開会挨拶　　山中　修　　国際連合日本政府代表部大使・次席常駐代表

パネルディスカッション

モデレーター　山本由美子
岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授、CSW68 専門委員

パネリスト　松元ちえ
女性による女性のための相談会実行委員会、アンフィルター（unfiltered.coop）代表
「日本の事例：高齢女性の貧困課題と草の根の取組み」
“Challenges facing elderly women, Grassroots organizing in Japan”

パネリスト　Dr. Sepali Kottegoda（セパリ・コッテゴダ）
Director Programmes, Women's Economic Rights and Media, Women and Media Collective, Member, Steering Committee APWW
「危機下におけるケアとレジリエンス ― スリランカからの考察」
“Caregiving and Resilience in times of Crises: Some insights from Sri Lanka”

パネリスト　塚本明広
JICA「移民送金を通じた金融包摂推進アドバイザー」事業　業務主任者
「信用組合の金融・非金融サービス利用を通じた女性のエンパワーメントと経済力の向上 ― グアテマラにおける日本の国際協力事業」
“Empowerment of Women and Improvement of their Economic Conditions through the Use of Credit Unions' Financial and Non-Financial Services in Guatemala”

ディスカッションおよび質疑応答

閉会挨拶　　紙谷雅子　　国連 NGO 国内女性委員会 CSW 担当幹事

開会にあたって

浅野万里子

JAWW（日本女性監視機構）代表

皆さん　こんにちは。

CSW68 における国連日本政府代表部、JAWW（日本女性監視機構）、国連 NGO 国内女性委員会、国際婦人年連絡会が主催するサイドイベント「女性の多次元的な貧困課題と草の根の対応:　日本、スリランカ、グアテマラからの報告」にご参加くださり、誠に有難うございました。

JAWW 代表の浅野万里子でございます。この度は、モデレーターとして山本由美子先生を、パネリストとして松元ちえさん、セパリ・コッテゴダさん、塚本明広さんの 3 名の方々をお招きして、日本、スリランカ、グアテマラ、ニューヨークをつなぐサイドイベントを開催できることを大変嬉しく光栄に思います。

始めるにあたり、何点かお願いがございます。ミュートでお願いいたします。チャット機能は、スタッフへのメッセージを含め、モデレーターとパネリストへのコメントや提案にのみお使いください。登壇者やモデレーターへの質問は、Q&A 機能を通じてなさってください。Q&A 機能に投稿された質問はモデレーターが取り上げますが、回答は順不同で対応させていただきます。

このサイドイベントは、アーカイブならびに内部使用を目的としてのみ録音・録画をいたします。写真撮影、音声・動画の録音はご遠慮ください。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

これより、山中修　国際連合日本政府代表部大使に歓迎のご挨拶をいただきます。山中大使、よろしくお願いいたします。

Opening Remarks

Mariko Asano

Convenor of Japan Women's Watch

Welcome to our CSW68 Online Side Event entitled "Women's Multidimensional Poverty Challenges and Grassroots Responses: Insights from Japan, Sri Lanka, and Guatemala" organized by the Permanent Mission of Japan to the United Nations, Japan Women's Watch, the National Women's Committee of the United Nations NGOs, and the International Women's Year Liaison Group.

I am Mariko Asano, Convenor of Japan Women's Watch. It is my great pleasure and honor as well to hold this side event here today with Dr. Yumiko Yamamoto as moderator and three distinguished panelists, Ms. Chie Matsumoto, Dr. Sepali Kottegoda and Mr. Akihiro Tsukamoto, connecting Japan, Sri Lanka, Guatemala and New York.

Before starting, we have a couple of announcements for all participants. We kindly ask everybody to mute themselves at this time, please. Chatting function has to be used only for comments and suggestions for the moderator and panelists, including messages to staff. That is, questions for the speakers or moderator are requested to post through the Q&A function. Questions mentioned through the Q&A function will be taken up by the moderator and please remind that answers may not be first-come-first-served basis.

This Side Event will be recorded for archival purpose and some internal use only. Please refrain from taking pictures and recording audio and video. Your understanding and cooperation would be highly appreciated.

Now I would like to invite His Excellency Mr. Osamu Yamanaka, Ambassador, Deputy Permanent Representative of Japan to the United Nations for the welcome remarks. Mr. Yamanaka, over to you.

開会挨拶

山中　修
国際連合日本政府代表部大使・次席常駐代表

Remarks by
H. E. Ambassador YAMANAKA Osamu
Deputy Permanent Representative of Japan to the United Nations

Distinguished colleagues, guests, good morning.

I am pleased to welcome you to this side event on "Women's Multidimensional Poverty Challenges and Grassroots Responses" on the margins of CSW68, alongside our NGO partners. The Permanent Mission of Japan co-hosts a CSW side event with civil society every year, and I am honored to deliver some remarks for today's discussions.

The Government of Japan places highest importance on gender equality and women's empowerment as policies to realize a society where all people can feel their purpose in life and individuality and diversity are respected. As stated in this year's priority theme of CSW, gender equality and the empowerment of all women and girls can be accelerated by addressing poverty and strengthening institutions and financing with a gender perspective.

In this vein, women's economic empowerment becomes a vital tool to address the multidimensional challenge of poverty, while taking into account intersecting factors and gender and human rights perspectives.

Every June, the Japanese Government formulates a policy package summarizing the measures taken by each ministry and agency towards gender equality and women's empowerment. The latest such policy package compiled last June, "The Basic Policy on Gender Equality and Empowerment of Women 2023," consists of three pillars: the first is "Promoting initiatives to realize a virtuous cycle of women's empowerment and economic growth," the second is "Strengthening initiatives to increase women's income and achieve their economic empowerment," and the last one is "Realization of a society in which women can live with dignity and pride."

One of the policy aims is to strengthen initiatives that promote women's economic empowerment, such as labor mobility into digital and other growing sectors, and support women in acquiring digital skills. Furthermore, we provide support for the promotion of women's entrepreneurship by using grants for the initiatives of local governments to foster women entrepreneurs.

To tackle poverty and women's economic empowerment on a broader level, in addition to these government policies, civil society has a valuable role to play, especially on the local and grassroots level.

Thus, I look forward to a fruitful panel discussion to deepen our shared understanding of the diverse poverty challenges facing women as well as effective responses to those challenges in Japan, Sri Lanka and Guatemala.

Thank you for your attention.

CSW68 サイドイベント

女性の多元的な貧困課題と草の根の対応—日本・スリランカ・グアテマラからの報告

“Women’s Multidimensional Poverty Challenges and Grassroots Responses: Insights from Japan, Sri Lanka, and Guatemala”

趣旨と成果

モデレーター　山本由美子（岡山大学 准教授）

今日、世界各地で多くの女性たちが貧困に直面している。女性の 10.3%が極度の貧困状態にあり、各国による取り組みを 26 倍にまで拡大しなければ、2030 年までに極度の貧困を撲滅するという持続可能な開発目標は達成せず、3 億 4 千万人以上の女性が極度の貧困状態にあり続ける[1]。これに各国定義による貧困ラインを下回って生活している人口を加えると、貧困の問題はさらに深刻である

パネルディスカッションのテーマを、草の根の活動から見えた女性の「多元的な貧困」としたのは、「女性の貧困」と一括りにしては見えない社会・経済の課題をまず明らかにしたいという趣旨を反映している。ジェンダーと年齢、国籍、民族性、婚姻状況などとの交差性(インターセクショナリティ)、時間の貧困と所得の貧困との関係性、貧困と社会的孤立・排除との関係性などから可視化された多元的な貧困を理解することこそが、多様なニーズに応える制度改革を考える上で必須と考えたからである。例えば、経済大国日本の相対的貧困率(2021 年)は 15.4%と先進国の中でも高く、それ自体問題であるが、25 歳以上の人口では、女性の貧困率は男性より高く、なかでも、シングルマザー(20-64 歳)や単身高齢女性の貧困率はそれぞれ 29.1%と 44.1%と、全世帯平均より 2〜3 倍高い[2]。なぜこのような格差が生まれるのか。日本特有の理由があるのか、それとも他国と共通する理由があるのか。後者であれば他国の政策や取組みは日本にとっても参考になるだろう。

パネルは、サイドイベントを共催した 3 NGO のネットワークを通じて招かれた 3 名のパネリスト、松元ちえさん(「女性による女性のための相談会実行委員会」実行委員、メディア協同組合アンフィルター(unfiletered.coop) ジャーナリスト)、セパリ・コッテゴダさん(「女性とメディア・コレクティブ」女性の経済的権利とメディア部門 プログラムディレクター、アジア太平洋女性監視機構 運営委員)、塚本明宏さん（JICA「移民送金を通じた金融

---

[1] UN(2024).Report of the Secretary-General(E/CN.6/2024/3), Para 15, https://documents.un.org/doc/undoc/gen/n24/011/64/pdf/n2401164.pdf?token=9ZJ3UlGDspn8OMpBuX&fe=true

[2] 阿部彩(2024)「相対的貧困率の動向(2022 調査 update)」https://www.hinkonstat.net

包摂推進アドバイザー事業」業務主任者）で構成された。まず、それぞれのパネリストから、日本、スリランカ、グアテマラでの現状や取り組みに基づいてご報告いただいた。各報告およびディスカッションを通じて、地域、経済水準、政治・社会の状況が異なる３つの国に共通する課題が明らかになった。

1 点目は、女性、特に既婚女性の労働参加率が男性より低いことである。これは、現役世代の所得だけでなく、将来の年金額にも影響するため、女性の経済的自立を妨げる要因でもある。したがって離別や死別、不況や経済危機などの社会的・経済的要因によって、女性は男性より脆弱な立場に置かれがちである。松元さんとコッテゴダさんは、女性が家族らのケア(家事や育児・介護等)を一手に担うことを期待されるために就業時間が制約されるだけでなく、例え就業しても非正規職や不安定な職しか得ることができないという日本とスリランカの現状をそれぞれ報告した。これはまさに、ケアの責任が女性に集中していることによる時間の貧困が所得の貧困を引き起こしていることを示している。その結果、松元さんが強調したように、仕事や住居を失った女性が社会的孤立・排除を経験し、DV 被害者は身の危険を感じても家庭にとどまらざるを得ない。また、スリランカとグアテマラの報告からは、既婚女性の就業機会が、特に地方において限定的であることが分かった。塚本さんは、JICA がグアテマラの信用組合と連携して、金融・非金融サービスの提供を通じて職業訓練や起業など、女性の経済的自立支援を行う事業とその成果を報告した。そのなかでは、若年女性が SNS を使ったマーケティングを積極的に取り入れビジネスの収益を伸ばすなど、女性の経済活動参加に期待の持てる事例も紹介された。

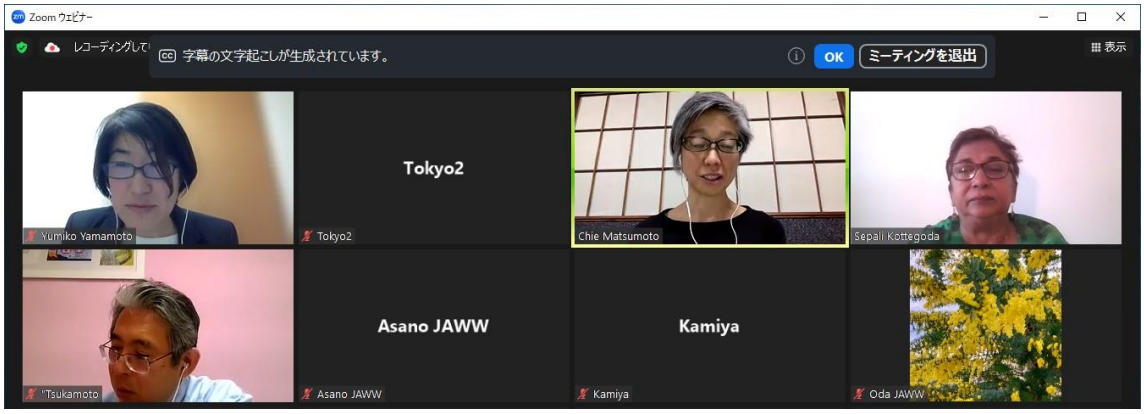
2 点目は、経済危機や貧困の影響をうけつつも、家計のやりくりやさまざまな形で経済活動に奮闘する女性の姿である。グアテマラとスリランカの経済は、内戦終結後も不安定な状況が続き、海外へ出稼ぎに行った労働者からの送金に頼る部分が大きい。塚本さんの報告にあったグアテマラの事業では、夫や父親からの仕送りを受けとる女性らが、家計を管理しつつ起業などに挑戦している。コッテゴダさんの報告からは、2022 年に債務不履行(デフォルト)状態に陥ったスリランカで、職につけない女性達が自宅の庭で野菜を育てたり、料理を工夫するなどして家族の生存を支えている現状が個別の事例報告を通して明らかになった。松元さんは、日本の高齢女性が得られる主な仕事として介護職をあげ、高齢女性労働者が高齢者を介護する老老介護に伴う課題を指摘した。介護労働が低賃金であることに加え、高齢労働者の高い労務災害件数をもとに職場環境の改善に注目する必要を訴えた。日本とスリランカには、社会保障制度の長い歴史があるが、保障内容が貧困世帯にとって充分ではないという共通する課題があることも明らかになった。

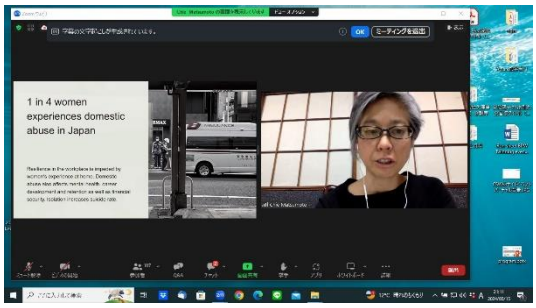
3 名による報告に続いて、参加者から多くの質問やコメントが寄せられ、30 分間の質疑応答・ディスカッションが活発に行われた。内容は、DV が国の経済に与える影響や女性の決定参画の重要性、ジェンダー予算、人種・民族的マイノリティの視点による現状分析についての問いから、ステークホルダーや草の根の対応、多次元貧困指数（MPI）についてなど詳細など多岐にわたるものであった。例えば、日本の介護業界の人手不足とケア労働者の生活の向上についての問いに、松元さんは、低賃金であることが人手不足の主な原因とし、ケアの仕事は、主に女性がしているために評価が低いが、高度なスキルを要する仕事であることから、労働報酬の改善に関連してスキルの定義の見直しの必要性を訴えた。また、グアテマ

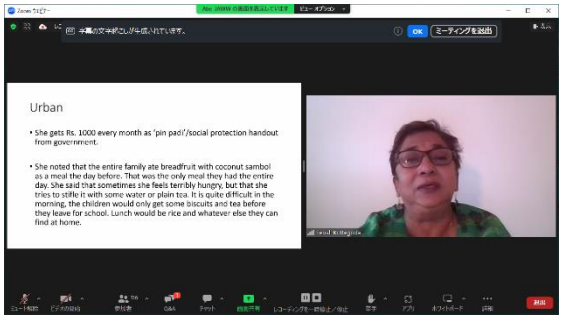
ラでの事業については、スリランカにも適用できるかとの質問に、塚本さんは、スリランカも海外移民労働者からの送金で家計が成り立っていることから同様の事業は効果的だと思うと答えた。緊縮財政下の NGO の役割についての質問に対しては、コッテゴダさんからは、貧困世帯に食事を提供するといった草の根の活動が紹介される一方で、ジェンダーに基づく暴力に対しては、政策や警察官の研修といったプログラムの必要性を訴えていく役割が期待されると述べた。

冒頭で述べたように、貧困撲滅に向けた政府の政策・事業が充分でないことから、国内外の NGO が貧困世帯などの支援をして政府による社会的制度や支援の欠如を補っている。スリランカでは、国の財政破綻のため貧困率が 2019 年の 11%から 2022 年に 25%になった。コッテゴダさんは、この結果、教育費が払えず退学した子ども、1 日 1 食しか食べられず栄養失調に陥った子どもについての具体的な事例に基づいて報告した。政府の財政破綻や政策の不備が、すでに脆弱な立場にいる女性・子どもらに及ぼす影響についてのスリランカの事例は、対外債務が急増しているアジア・アフリカなどの途上国だけでなく、債務の GDP 比が世界一高い日本にとっても他人事ではない。近い将来の日本において、債務削減のために、歳出削減、および歳入を増やすための増税は避けられないのではないかということを考えると、生存維持の危機が拡大することは容易に想像できる。そうならないよう、日本においても世界においても、女性をはじめとする最も脆弱な状況にある人びとを中核においた貧困撲滅に向けた政策や取組みが行われ、それに資金が振り向けられるよう、私たちは今から声を挙げていく必要がある。

パネリストの報告概要


Zoom ウェビナー
字幕の文字起こしが生成されています。
OK
ミーティングを退出
表示
Yumiko Yamamoto
Tokyo2
Tokyo2
Chie Matsumoto
Sepali Kottegoda
Tsukamoto
Asano JAWW
Asano JAWW
Kamiya
Kamiya
Oda JAWW


1 in 4 women experiences domestic abuse in Japan


Urban
• She gets Rs. 1000 every month as 'pin padi'/social protection handout from government.
• She noted that the entire family ate breadfruit with coconut sambol as a meal the day before. That was the only meal they had the entire day. She said that sometimes she feels terribly hungry, but that she tries to stifle it with some water or plain tea. It is quite difficult in the morning, the children would only get some biscuits and tea before they leave for school. Lunch would be rice and whatever else they can find at home.

「日本の事例：高齢女性の貧困課題と草の根の取組み」
“Challenges facing elderly women, Grassroots organizing in Japan”
松元ちえ

プレゼンテーションでは、女性に対する草の根の相談活動を通じて浮かび上がってきた、日本における高齢女性の直面する多元的・多面的課題への対処こそが、強靭な社会の構築につながることを述べたい。

相談活動は、コロナ下にあって困難な状況に置かれている女性を支え、専門的な支援につなげるための安全な相談スペースとして、市民団体、労働組合、弁護士などの協力で開設した。10 代から 80 代の女性計数百人が訪れ、その大半は中高齢者であった。

相談を通じて、女性が担っているケア労働、家庭内外における暴力、非正規雇用への集中などの構造的な性差別により、女性の経済的自立が妨げられ、居場所を失い、孤立と貧困状態に追いやられていることが明らかになった。コロナ禍における女性の自殺率の上昇はこれを示している。

性別賃金格差はさまざまな形で女性の貧困に影響する。たとえフルタイムで雇用されていても賃金格差のため年金が少なく、夫への経済的依存が続く。女性は育児、介護などの無償のケア労働のため非正規雇用に転換することが多く、非正規雇用者の 70%は女性である。これは、女性の無償ケア労働と非正規化を減らすための公的サービスへの投資が重要なことを示している。

暴力は家庭や職場など社会全体でみられる。日本では 4 人に 1 人の女性が家庭内暴力を経験しているという。しかし、根強い社会的スティグマや支援が不十分なため、たとえ命の危険を感じても留まる選択をする人が多い。日本の働くシングルマザーの相対的貧困率は非常に高く、コロナ下で始まったテレワークは、家庭内暴力のサバイバーにとっては更なる苦痛をもたらした。

日本の女性の平均余命の長さは知られているが、実は、高齢女性の多くが、低年金・低所得を補うために働いている。ケア産業は、高齢女性にとっての数少ない就業先で、在宅ケア労働者の 4 人に 1 人が 65 歳以上で、そのほとんどが女性である。高齢女性ケア労働者が高齢女性を支えているといえる。他方、労務災害死亡の約 40%が高齢者という数字からは、高齢女性ケア労働者の労働安全の問題にも目を向けるべきことを示唆している。

国の予算は、防衛費の増強や社会福祉予算の削減ではなく、ジェンダーに敏感な社会保護制度の強化にこそ向けられるべきである。それこそが、日本国憲法で謳われている「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を保障するものである。強靭な社会を構築するためには、最も弱い立場の人々が自立して生きられるようにしなければならない。ILO（国際労働機関）の諸条約や CEDAW（女性差別撤廃条約）の選択議定書の批准は、そのために有効である。また、経済格差や社会的不正義を拡大させない形での、包括的なデジタル化の促進も取り組むべきことである。

最後に、強靭な社会の構築は、草の根の活動から始まること、ケアする人・される人の尊厳を大切にした、交差的視点に基づく政策が重要であること強調したい。

ジャーナリスト、メディア協同組合アンフィルター（Unfiltered）、法政大学非常勤講師。英字紙記者、海外通信社として勤務したのち独立。コロナ禍で、失業、家庭内暴力、住まいを失ったりした女性たちのための「女性による女性のための相談会」を実施。

「危機下におけるケアとレジリエンス ― スリランカからの考察」
“Caregiving and Resilience in times of Crises: Some insights from Sri Lanka”
Sepali Kottegoda（セパリ・コッテゴダ）

報告：スリランカの①ジェンダーに基づく賃金労働/無償労働の現状と社会開発政策及び 2021 年の経済危機以降深刻化した経済状況と②多元的貧困における女性の経済的苦境について実例を交えて発表した。

① ジェンダーに基づく賃金/無償労働の現状と近年の動向―2021 年の経済危機を境に―

スリランカの女性の労働参加率は、32.1%と男性に比べて低い。家事参加率は、男性が 4.1%と女性に比べて顕著に低く、家事労働や賃金労働に関する性別役割分業意識がいまだに残っている。他方で、国の社会開発政策による、配給、年金や高齢者への支援等の貧困削減計画は比較的効果的であったことから、先進国並みの水準に達していた。しかし、コロナウイルスの流行、国の経済破綻、生活必需品の急激な高騰、IMF の介入と政府による緊急援助計画等の結果、2021 年以降に直面した状況は、1948 年の独立以来最悪の経済危機となった。電気代、交通費、食費、学校の教科書代が急騰し、その影響は子どもや妊婦、授乳中の女性など幅広い多くの人へ莫大な影響を与えている。それに伴い、貧困人口は驚くほど増加しており、2019 年に 11.3%だった貧困率は、2022 年には 25%となっている。

② スリランカにおける多元的貧困と女性の経済的苦境―貧困指数と実例から見る―

昨年発表された多次元貧困指数（MPI）は、国の貧困状況を詳細に表しており、教育、健康、生活水準の 3 つの側面を通じて各世帯の困窮を把握する画期的なものだった。この指数によると、65 歳以上の高齢者が最貧層であり、特に保健設備や飲料水、燃料などの基本的な設備の欠乏を示している。また、子供の貧困状態も深刻であり、5 歳未満の子供の 42%が多元的貧困に苦しんでいる。さらに、具体的な例を挙げ、貧困がどのように生活を脅かし、特に女性が経済的に負担を強いられていることが示された。高齢女性の貧困は高齢男性とは異なる側面を持ち、家族や社会の支援を受けにくいという特殊な問題を抱えている。政府の貧困緩和プログラムは女性に支援を提供しているが、危機の時代にあって経済基盤の影響を受けやすい女性のニーズに対してより配慮する必要がある。医療制度も種々の問題や予算上の制約はあるが、スリランカが社会開発指標を回復するためには、引き続き基礎的なニーズにこそ優先的に取り組む必要がある。

質疑応答：上の発表内容に関し、いくつかの質疑応答がなされた。

・スリランカの MPI についての質問があり、これに対して、MPI は非常に有用であるが、女性と男性で経験する貧困への違いの可視化のためには、MPI にジェンダーの側面をどのようにくわえていくかという課題はある。

・経済危機下のスリランカにおける NGO や団体からの支援についての質問に対して、いくつかの団体が、フードバンクの運営や食事の提供などの支援を行なっており、成果を上げていることがあげられた。

サセックス大学開発学博士取得。スリランカの NGO「女性とメディア・コレクティブ」女性の経済的権利とメディア部門 プログラムディレクター/アジア太平洋女性監視機構(APWW) 運営委員

「信用組合の金融・非金融サービス利用を通じた女性のエンパワーメントと経済力の向上 ― グアテマラにおける日本の国際協力事業」

“Empowerment of Women and Improvement of their Economic Conditions through the Use of Credit Unions' Financial and Non-Financial Services in Guatemala”

塚本明広

発表内容：　アドバイザー業務を通じて推進している①現地プロジェクトの概要と②その効果について、特に女性の経済的エンパワーメントから発表。

①　現地プロジェクト概要：　JICA アドバイザー業務を通じて、グアテマラ政府機関である協同組合庁（INACOP）と共に、GuateCrece プロジェクトを実施中。このプロジェクトでは、米国国際協力庁（USAID）等の実施事業と現場で連携しつつ、信用組合の金融・非金融サービスの充実を促している。より良い経済機会を求めて、国外に移民・出稼ぎする者の多いグアテマラでは、国外移住者等が、国内に残された家族に国際送金を行っており、その総額は GDP2 割相当の規模となっている。この資金を有効活用することで、女性の経済的エンパワーメントや、地域経済開発を促す。

②　プロジェクトの効果：　2023 年（暦年）におけるプロジェクト効果として、参加者（協同組合員）の月収が、一人当たり約 280 米ドル増加した。効果量で見ると、男性よりも、女性参加者の方が、効果が大きかった。現地では、20 歳代及び 30 歳代の女性が、信用組合を通じて提供されている研修や金融教育をうまく活用している様子が窺える。国外に出稼ぎしている夫の送金を上手に活用して、縫製ビジネスを拡大している女性もいる。相互扶助の概念を持つ信用組合は、グアテマラ女性にとって、利用しやすい地元金融機関となっており、信用組合を通じて女性の経済的エンパワーメントを図ることが可能である。

質疑応答内容：　上の発表内容に関し、次の質疑応答がなされた。

①　女性ビジネス開業・実施の障害は何か？→　現在、コロナ禍収束に伴い、女性ビジネス分野の内需（衣服、食事提供業等）は増えている。しかし、どのようにビジネスをすべきといった知見、また、該当ビジネス分野の技術の不足がネックになりやすい。能力強化が肝要である。

②　先住民の状況はどうか？→　グアテマラでは多くの先住民グループがおり、様々な言語が使われている。必ずしも公用語のスペイン語が得意ではない女性たちもいる。地元で経営されている信用組合の場合、先住民語でアテンドすることもでき、そうした点でも、アクセスしやすい金融機関となっている。

③　マイクロビジネスの成功のために重要な支援は何か？→　金融サービスと非金融サービスの統括的運用が重要と思料。お金をうまく使うには、非金融サービスの有効活用が重要となる。なお、古着販売ビジネスでは、少額の初期開業費用で開業できる場合もあり、貯蓄習慣も重要である。

国際協力機構（JICA）グアテマラ国移民送金を通じた金融包摂推進アドバイザー業務主任者、株式会社かいはつマネジメント・コンサルティング所属。英国立ヘリオット・ワット大学経営学修士（MBA）取得。

閉会挨拶

国連 NGO 国内女性委員会 CSW 担当幹事

紙谷雅子

女性がさまざまな貧困に直面することになる理由は無数にあります。どうすることもできない世界的な経済状況を無視することはできません。多くの場合、人々は貧困の状況を彼女自身の選択の結果であると見なしますが、よくよく考えれば、彼女は自分の選択だったことに気づいておらず、そのようにするのが自然であると考えており、他の選択肢を思い浮かべることもできなかったと言えます。それは、彼女が社会の中で置かれている状況を反映しており、そうすることを期待されているようなものでした。

父権社会における目に見えない社会的圧力、その中での女性や少女の役割に関する無意識の偏見など、より大きな問題があることを私たちは知っています。彼女にとって教育や適切な情報、資金や他のリソースが、目に見えない壁や天井を乗り越え、より良い未来を築くのに役立つことを願っています。私たちの社会に完全参加ができるように。

今日のプログラムでは、貧困に直面している女性の問題をひとつずつ対処することが示されましたが、そう長くは待てない場合もあります。大きな問題に草の根で取り組み、少しずつ改善していき、最終的にその問題自体に欠陥がある故に崩壊することを願っているとは言え、それほど長くは待てない場合もあります。

毎年 CSW で国連日本政府代表部との共催によるサイドイベントを開催している NGO の一員として、本日のサイドイベントに関わってくださったコーディネーター、パネリスト、スタッフ、クルーの皆様、そして多くのアドバイザーやサポーターの皆様に感謝いたします。 最後になりましたが、本日のサイドイベントで 90 分を共有することを選択してくださった皆様にお礼を申し上げます。何かを持ち帰り、考え、行動していただければ幸いです。

CSW 69 でもまたお会いできればと思います。

ジェンダー平等を達成し、すべての女性と少女をエンパワーメントできるように、新たなそして刺戟ある視点を提示したいものです。

2025 年 3 月にまたお会いいたしましょう。

Closing Remarks

Masako Kamiya

The National Women's Committee of the United Nations NGOs

There are a million reasons why women face different dimensions of poverty. We cannot ignore the global economic condition about which one cannot do much about. More often, people see the situation of poverty as the result of her own choice. But if we look closer, she hadn't realized what she did was a choice: She thought it natural to do things that way and couldn't image alternatives.

The circumstances were such that it was expected of her to do so, reflecting her situation in society.

We know a bigger picture: invisible social pressure within paternalistic society and unconscious bias about women and girl's role within. We hope education and appropriate information, as well as financial and other resources, are useful for her to overcome invisible walls and ceilings for a better future. To be a full participating person in our society.

Our program illustrates dealing with the problem of women facing poverty can be dealt with one at a time . . . tackling the big problem from the ground to improve piecemeal. . . and we hope the problem will eventually topple itself because of its own defects. But sometimes we might not be able to wait that long.

As one member of the NGOs presenting this series of CSW side events each year with the Permanent Mission of Japan to the United Nation, we thank the coordinator, all the panelists and staff and crews, as well as numerous advisors and supporters for today's side event . . . last but not the least, we thank our audience who decided to share their 90 minutes with us. I hope you now have something to take home and think and act on this issue.

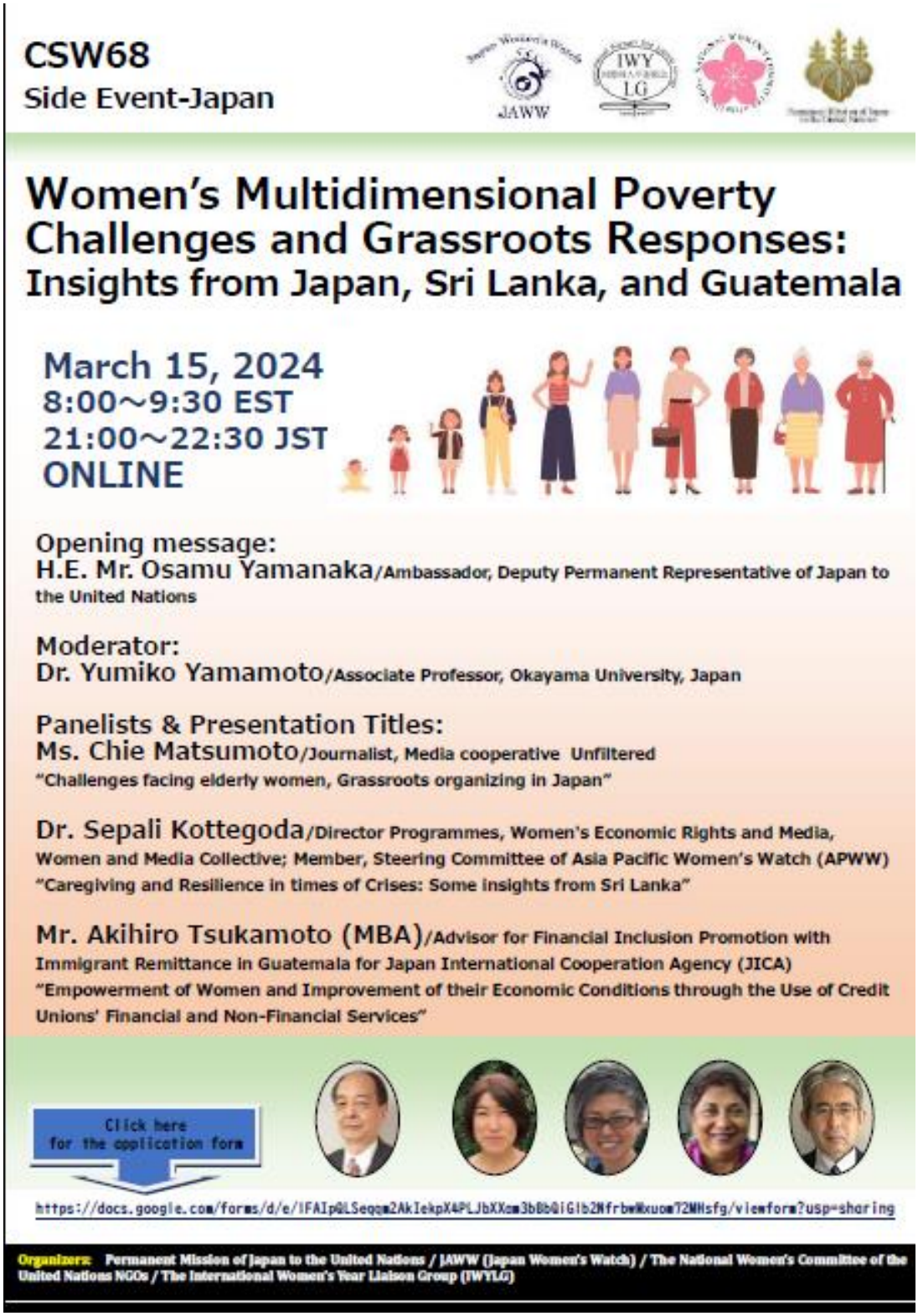
We look forward to see you again we hope, at CSW 69.

We hope to present a new and stimulating view to bring gender equality and empowerment for all women and girls.

See you again in March 2025.

資料集

1. フライヤー



CSW68
Side Event-Japan

Women's Multidimensional Poverty Challenges and Grassroots Responses: Insights from Japan, Sri Lanka, and Guatemala

March 15, 2024
8:00～9:30 EST
21:00～22:30 JST
ONLINE

Opening message:
H.E. Mr. Osamu Yamanaka/Ambassador, Deputy Permanent Representative of Japan to the United Nations

Moderator:
Dr. Yumiko Yamamoto/Associate Professor, Okayama University, Japan

Panelists & Presentation Titles:
Ms. Chie Matsumoto/Journalist, Media cooperative Unfiltered
"Challenges facing elderly women, Grassroots organizing in Japan"

Dr. Sepali Kottegoda/Director Programmes, Women's Economic Rights and Media, Women and Media Collective; Member, Steering Committee of Asia Pacific Women's Watch (APWW)
"Caregiving and Resilience in times of Crises: Some insights from Sri Lanka"

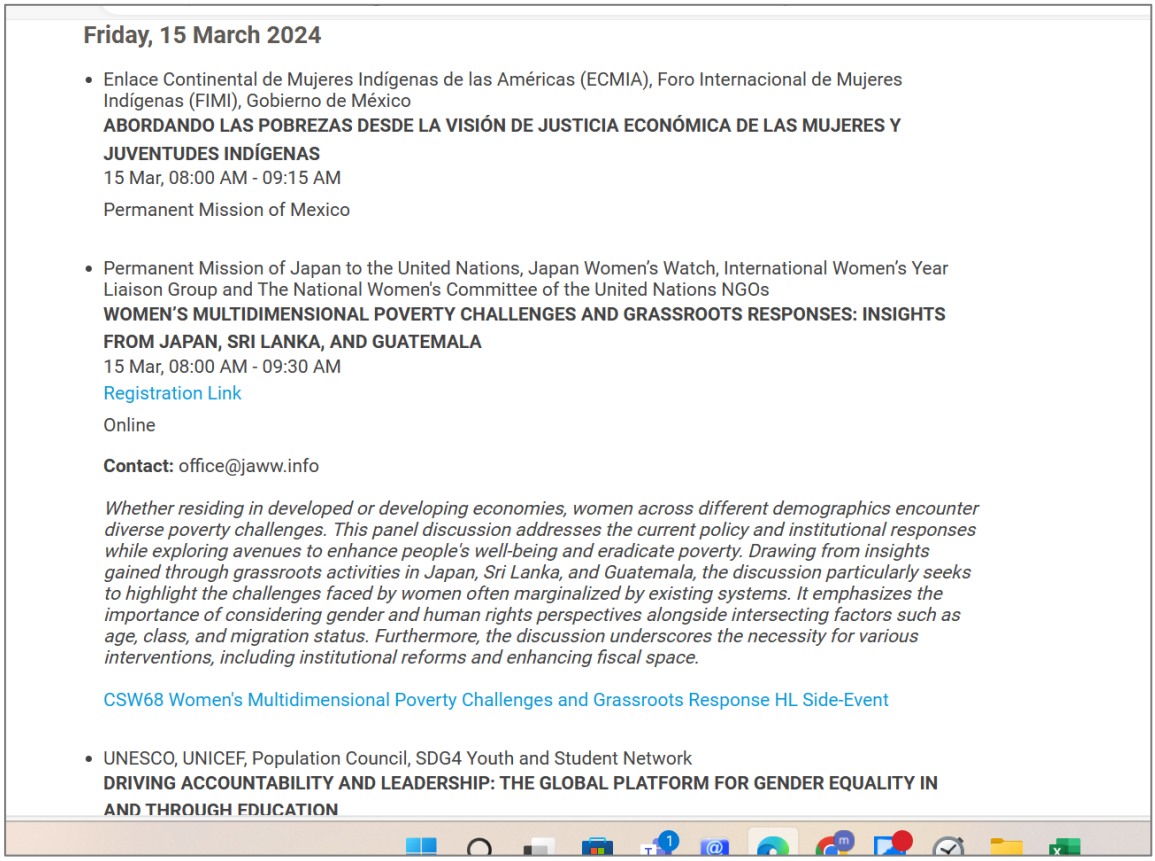
Mr. Akihiro Tsukamoto (MBA)/Advisor for Financial Inclusion Promotion with Immigrant Remittance in Guatemala for Japan International Cooperation Agency (JICA)
"Empowerment of Women and Improvement of their Economic Conditions through the Use of Credit Unions' Financial and Non-Financial Services"

Click here for the application form

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeqqm2AkIekpX4PLJbXXcm3bBbQiGlb2NfrbwWxuomT2NHsfg/viewform?usp=sharing

Organizers: Permanent Mission of Japan to the United Nations / JAWW (Japan Women's Watch) / The National Women's Committee of the United Nations NGOs / The International Women's Year Liaison Group (IWYLG)

2.国連サイト



Friday, 15 March 2024

- Enlace Continental de Mujeres Indígenas de las Américas (ECMIA), Foro Internacional de Mujeres Indígenas (FIMI), Gobierno de México
  ABORDANDO LAS POBREZAS DESDE LA VISIÓN DE JUSTICIA ECONÓMICA DE LAS MUJERES Y JUVENTUDES INDÍGENAS
  15 Mar, 08:00 AM - 09:15 AM
  Permanent Mission of Mexico

- Permanent Mission of Japan to the United Nations, Japan Women's Watch, International Women's Year Liaison Group and The National Women's Committee of the United Nations NGOs
  WOMEN'S MULTIDIMENSIONAL POVERTY CHALLENGES AND GRASSROOTS RESPONSES: INSIGHTS FROM JAPAN, SRI LANKA, AND GUATEMALA
  15 Mar, 08:00 AM - 09:30 AM
  Registration Link
  Online

  Contact: office@jaww.info

  Whether residing in developed or developing economies, women across different demographics encounter diverse poverty challenges. This panel discussion addresses the current policy and institutional responses while exploring avenues to enhance people's well-being and eradicate poverty. Drawing from insights gained through grassroots activities in Japan, Sri Lanka, and Guatemala, the discussion particularly seeks to highlight the challenges faced by women often marginalized by existing systems. It emphasizes the importance of considering gender and human rights perspectives alongside intersecting factors such as age, class, and migration status. Furthermore, the discussion underscores the necessity for various interventions, including institutional reforms and enhancing fiscal space.

  CSW68 Women's Multidimensional Poverty Challenges and Grassroots Response HL Side-Event

- UNESCO, UNICEF, Population Council, SDG4 Youth and Student Network
  DRIVING ACCOUNTABILITY AND LEADERSHIP: THE GLOBAL PLATFORM FOR GENDER EQUALITY IN AND THROUGH EDUCATION

3. Concept note

ONLINE Side Event of the 68th Session of the UN Commission on Status of Women (CSW68)

Title: Women's Multidimensional Poverty Challenges and Grassroots Responses: Insights from Japan, Sri Lanka, and Guatemala

Date/Time: March 15, 2024, 8:00-9:30 (EST), 21:00-22:30 (JST)

Organizers: The Permanent Mission of Japan to the United Nations
JAWW (Japan Women's Watch)
The National Women's Committee of the United Nations NGOs
International Women's Year Liaison Group (IWYLG)

Objectives: Whether residing in developed or developing economies, women across different demographics encounter diverse poverty challenges. This panel discussion addresses the current policy and institutional responses while exploring avenues to enhance people's well-being and eradicate poverty. Drawing from insights gained through grassroots activities in Japan, Sri Lanka, and Guatemala, the discussion particularly seeks to highlight the challenges faced by women often marginalized by existing systems. It emphasizes the importance of considering gender and human rights perspectives alongside intersecting factors such as age, class, and migration status. Furthermore, the discussion underscores the necessity for various interventions, including institutional reforms and enhancing fiscal space.

Moderator: Dr. Yumiko Yamamoto, Associate Professor, Okayama University, Japan

Panelists & Presentation Titles:

- Ms. Chie Matsumoto/ Journalist, Media cooperative Unfiltered.

  "Challenges facing elderly women, Grassroots organizing in Japan"

- Dr. Sepali Kottegoda/ Director Programmes, Women's Economic Rights and Media, Women and Media Collective; Member, Steering Committee of Asia Pacific Women's Watch (APWW)

  "Caregiving and Resilience in times of Crises: Some insights from Sri Lanka"

- Mr. Akihiro Tsukamoto (MBA)/ Advisor for Financial Inclusion Promotion with Immigrant Remittance in Guatemala for Japan International Cooperation Agency (JICA).

  "Empowerment of Women and Improvement of their Economic Conditions through the Use of Credit Unions' Financial and Non-Financial Services"

4. 企画書

企 画 書
第 68 回 国連女性の地位委員会(CSW68)　サイドイベント

国際連合日本政府代表部、国際婦人年連絡会、国連 NGO 国内女性委員会、
JAWW（日本女性監視機構） 共催

【題名】
「女性の多元的な貧困課題と草の根の対応ー日本・スリランカ・グアテマラからの報告」
Women's Multidimensional Poverty Challenges and Grassroots Responses: Insights from Japan, Sri Lanka, and Guatemala

【日時】　2024 年 3 月 15 日（金） 8:00～9:30 am（EST） 、21 時～22 時 30 分（JST）
【形式】　オンライン（Zoom を使用）によるパネルディスカッション
【使用言語】　英語
【想定参加者】　ジェンダー平等の達成および女性のエンパワーメントに関心を持つ CSW68 参加者、政府および国連関係者、市民、研究者

【参照】　CSW68 主要テーマ： Priority theme: Accelerating the achievement of gender equality and the empowerment of all women and girls by addressing poverty and strengthening institutions and financing with a gender perspective　（ジェンダー視点に立った貧困対策、制度及び財源調達に取り組み、ジェンダー平等とすべての女性・少女のエンパワーメント達成を加速する［JAWW 仮訳］）

【趣旨・概要】
今日、世界各地であらゆる多様性を持つ女性たちがさまざまな貧困の課題に直面している。草の根の活動等を通じて得られた知見をもとに、人びとのウェルビーイングの向上や貧困撲滅に向けた取組みについて政策的・制度的対応の現状と解決の可能性を議論する。特に、ジェンダーと人権や、年齢、階級、移民などの交差性の視点に立ち、既存の制度から取り残されがちな人びとに焦点を当て、課題を可視化し、制度の改革、資金の充当などの多元的な取組みが必要であることを強調する。
パネルディスカッションでは、日本、スリランカ、グアテマラでの取り組みを取り上げる。
まず、世界で最も高齢化が進んだ国である日本における高齢女性についてみると、65 歳以上人口の女性対男性比は約 4 対 3 と高齢女性人口が多いだけでなく[3]、高齢女性の相対的貧困率は、高齢男性や他のどの年齢層よりも高い。特に単独世帯の高齢女性の貧困率は 44.1%で男性 30.0%

[3] 内閣府. 2023.『令和 5 年版高齢社会白書』

より高く[4]、未婚・死別・離別を問わず、女性が１人で老後を過ごすことの困難を示している。日本の高齢女性の貧困課題の現状と、女性のエンパワーメントの視点からの草の根の取組みは、急激に高齢化が進む近隣アジア諸国にとっても参考になるであろう。

2009 年に内戦が終結したスリランカは、復興活動により一時的に、安定的な経済・社会を遂げたが、コロナ禍における観光収入や海外就労による送金額の激減、輸入価格の高騰などの複合的な理由により、22 年に債務不履行（デフォルト）状態に陥った。公共サービス支出を減らし、歳入を増やすための増税などの財政健全化政策は、すでに脆弱な状況にある貧困女性にどのような影響を与えたか。コッテゴダ氏が報告する草の根の現状と対応は、対外債務が急増しているアジア・アフリカの途上国にとっても参考となるであろう。

途上国の貧困削減の資金源の多くは、海外労働者らからの送金に依存しており、スリランカとグアテマラも例外ではない。グアテマラ移民による送金額は 2020 年に GDP 比１4.7%に達したが、移民送金は家計を支える一方で、教育や生産的投資などにまで広がっておらず移民送金受領者の生活向上が課題である[5]。グアテマラにおける JICA 事業は、多くが女性である協同組合による金融・非金融サービスを充実させることにより、移民送金受領者とその家族の生活向上や地域経済発展を目指している。JICA 事業は、金融包摂や貧困課題への対応と展望を考えるに当たり大いに参考になるに違いない。

【モデレーター】　山本由美子、岡山大学グローバル・ディスカバリープログラム／大学院社会文化科学研究科准教授、CSW68 専門委員

【パネリスト・肩書、プレゼンテーションのテーマ】

・ 松元ちえ、「女性による女性のための相談会実行委員会」実行委員、メディア協同組合アンフィルター (Unfiltered. coop)
「日本の事例：高齢女性の貧困課題と草の根の取組み」
“Challenges facing elderly women, Grassroots organizing in Japan”

・ Dr. Sepali Kottegoda （セパリ・コッテゴダ）, Director Programmes, Women's Economic Rights and Media, Women and Media Collective, Member, Steering Committee APWW
「危機下におけるケアとレジリエンス ― スリランカからの考察」
“Caregiving and Resilience in times of Crises: Some insights from Sri Lanka”

・ 塚本明広、JICA「移民送金を通じた金融包摂推進アドバイザー事業」　業務主任者
「信用組合の金融・非金融サービス利用を通じた女性のエンパワーメントと経済力の向上 ― グアテマラにおける日本の国際協力事業」
“Empowerment of Women and Improvement of their Economic Conditions through the Use of Credit Unions' Financial and Non-Financial Services in Guatemala”

（2024 年 2 月 7 日 現在）

---

[4] 阿部彩. 2024.「相対的貧困率の動向：2022 年国民生活基礎調査を用いて」　貧困統計 HP
[5] JICA. nd.「移民送金を通じた金融包摂推進アドバイザー」 プロジェクト概要, JICA HP.

投影資料

1．　松元ちえ

CSW68 2024

Challenges facing elderly women - Grassroots organizing in Japan

Chie Matsumoto
Journalist, Media cooperative Unfiltered
Committee for Consultation for Women, by Women

Grassroots support, solidarity of women

- Women from all walks of life and different age groups banded together through shared experiences during the pandemic.
- Expected to care for others, women often lose self-awareness and lack resources to reach out for help.

1 in 4 women experiences domestic abuse in Japan

Resilience in the workplace is impeded by women's experience at home. Domestic abuse also affects mental health, career development and retention as well as financial security. Isolation increases suicide rate.

Lifetime of income disparity at work

How COVID-19 exacerbated pre-existing gaps between genders

- ¥50 million lifetime income discrepancy
- This to ¥100 million after childbirth
- Carework limits time ability to claim pension
- Only 50% return to work after childbirth
- Casual workforce is 70% women

Women in care vs. how we care for women

AGE

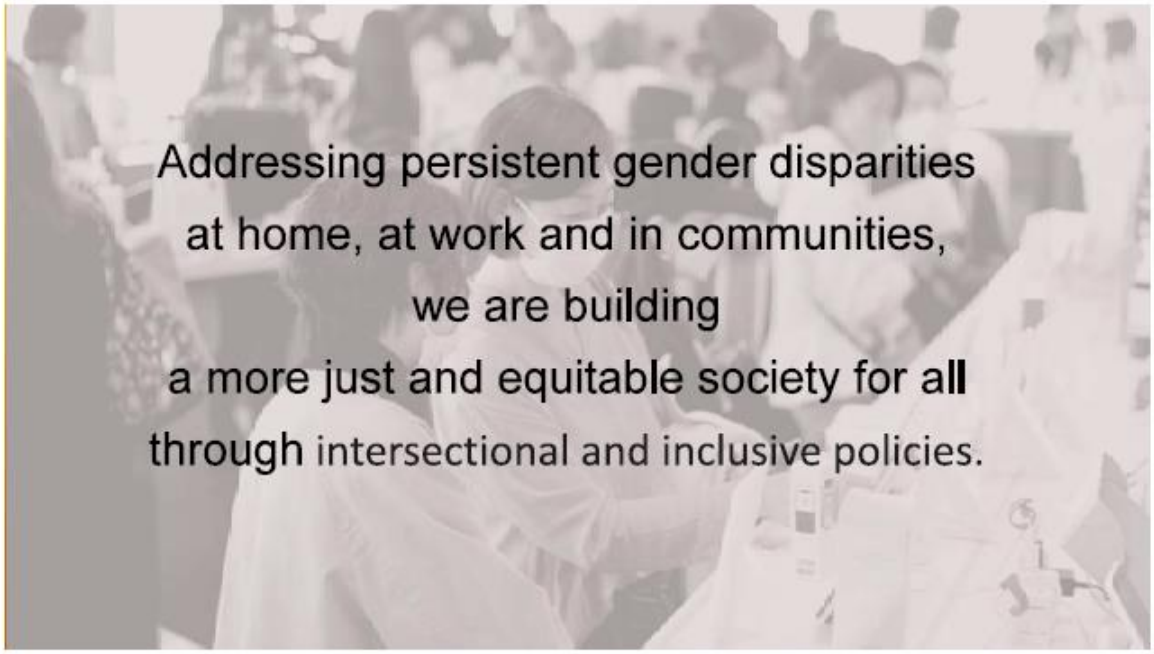
1 in 4 home care workers in Japan is +65yrs

GENDER

80% of careworkers are women

MORTALITY

40% of deaths caused by occupational hazards



２． Sepali Kottegoda（セパリ・コッテゴダ）

Multidimensional Poverty and Women: Insights from Sri Lanka

Sepali Kottegoda. *M.Phil, D.Phil (Sussex)*
Women and Media Collective, Sri Lanka
Asia Pacific Women's Watch

Demographic Highlights

- In 2021 the total population was estimated to be 22.256 million; comprising 10,727 million men and 11,429 women. The population above 60 years of age comprised 16.4%, between 0-4 years was 15.9% and between 15-24 was 14.8%.

Women and Men in and out of the Labour Force

- Labour force participation of men in 2022 was 70.5 (5.5 million) and of women was 32.1 (2.9 million).
- The Economically Active or labour force participation of men was 65.3% for men and 34.7% for women.
- In the category 'Economically Inactive' it was 27.1 for men and 72.6% for women. Looking further into the disproportionately high representation of women here, it is found that 58% of these women are categorized a 'Engaged in Housework' as against 4.1% of men.

Sri Lanka Social Development Policies

- Government healthcare services have, with the exception of the period of the ethnic conflict/war, been extensive and accessible to the population. Our literacy levels, especially of women (at 92.3), has been on par or better than some developed countries.

Poverty Allevation by Policy

- We moved from universal ration cards in the 1960s to targeted economic support or Poverty Alleviation programmes in the 1980s with successive governments 'improving' such programmes. Social safety nets also include state supported pensions, payment to the elderly. These measures were, for the most part, relatively effective.

Economic Crisis 2021

- In 2023, 100,000 households had their electricity connections cut due to households' inability to pay electricity bills that went up by almost 300% in a few months.
- Very rapid rise in transport, food, school books etc
- Children are dropping out or not attending school regularly.
- Women's access to paid work – greater numbers pushed in to informal sector or not able to obtain work for decent wages

Population in Poverty

- Poverty which had been 11.3 in 2019 went up to 12.7 in 2020, adding 300,000 new poor. In 2022, poverty was at 25% which was an additional 2.5 million to the population in poverty.

Nutrition – women and children

- The economic crisis has also had serious impact on access to nutrition by pregnant and lactating women. Due to the escalation of prices of food along with cooking fuel (gas, kerosene), many poor and even middle-class households have reduced their food intake, especially protein rich food such as eggs, fish and meat.

- UNICEF found that 2.8 million children and women require nutrition services, and 480,187 lactating mothers were in need of cash assistance.

- UNICEF "Humanitarian Action for Children" 2023. unicef.org/media/131556/file/2023-HAC-Sri-Lanka.pdf

Multidimensional Poverty – Sri Lanka

- One in every six (16%) persons in Sri Lanka are multidimenstionally poor.
- People aged 65 and older are the poorest age group
- Deprivations in health facilities, cooking fuel, drinking water and based facilities have the highest levels of deprivation.
- The Child MPI shows that more than four out of every ten (42.2%) children under the age of five are multidimensionally poor.
- One third (33.4%) of children aged 0-4 years are multidimensionally and either underweight or stunted.
- One sixth (16.4%) of children aged 0-4 years are multidimensionally poor and deprived in early child development.

Snapshots from the ground

- Moneragala – Uva Province, South West Sri Lanka (1)
- Nandani is a 35 year old mother of one child. She has a disability in her leg. Her husband is a carpenter who had been unemployed for three months, but had found work a few days before. He travels around looking for daily work. Nandani sews cloth bags and does home gardening. Before the covid pandemic, she earned a living through selling vegetables from her garden. But after covid and the economic crisis, she finds it difficult to grow vegetables and to sell what she harvests. Her electricity bill which used to be around Rs. 750 per month is now around Rs. 3000.

Moneragala - Rural

- Her child is in a pre-school nearby. She takes him to the monthly clinic run by the government. They have told her that he is underweight. She says, because of economic hardship, she had stopped giving the child milk. They do not buy meat, on occasion, they buy river fish. They used to give the child an egg every few days, but these days, it might be once a week. The family used to get a food supplement 'Thriposha' from the clinic for the child, but had not it received for a year. The clinic had started distributing this a few months ago. Her son has been included in the clinic records of undernourished children.

Moneragala – Rural (2)

- Damayanthi is 40 years old. Her husband is 42. They have three daughters aged 15, 13 and 8. All are in school. The youngest daughter is included in the government programme of providing one meal for children up to 10 years. The school meal has a cup of rice, some greens, one vegetable and sometimes a dry fish gravy. A slice of boiled egg used to be given several times a week instead of dry fish, but not now. For the older girls, she would cook rice and a vegetable for them to take to school, fish would only be cooked in the night, if at all.

- Their economic hardship started with the Covid pandemic. Now, they have cut down on their meals to the point that any protein, such as dry fish is bought mainly for the youngest child. If they cook a sprats head curry or a fish curry, the two older daughters would only eat from the gravy, they leave any pieces for the youngest sister. They used to buy fresh milk from a nearby farm at low cost, but now the price is higher and they can have milk only about twice a week.

Colombo - Urban

- Naya Bibi is a 68 year old woman living in low and middle income settlement in Colombo. She is unemployed. Her husband passed away 9 years after they got married. She has two children, a daughter and a son. The daughter is married and has four children (three boys, one girl). The daughter and son both live with her. The daughter's husband drives a three wheeler/auto rickshaw. There are three families in the same house–Naya Bibi, her daughter's family; Naya Bibi's sister and her husband. The daughter's children are all in the school-going age. Her grandchildren are 7, 14, 10, the youngest goes to a montessori.

Urban

- She gets Rs. 1000 every month as 'pin padi'/social protection handout from government.

- She noted that the entire family ate breadfruit with coconut sambol as a meal the day before. That was the only meal they had the entire day. She said that sometimes she feels terribly hungry, but that she tries to stifle it with some water or plain tea. It is quite difficult in the morning, the children would only get some biscuits and tea before they leave for school. Lunch would be rice and whatever else they can find at home.

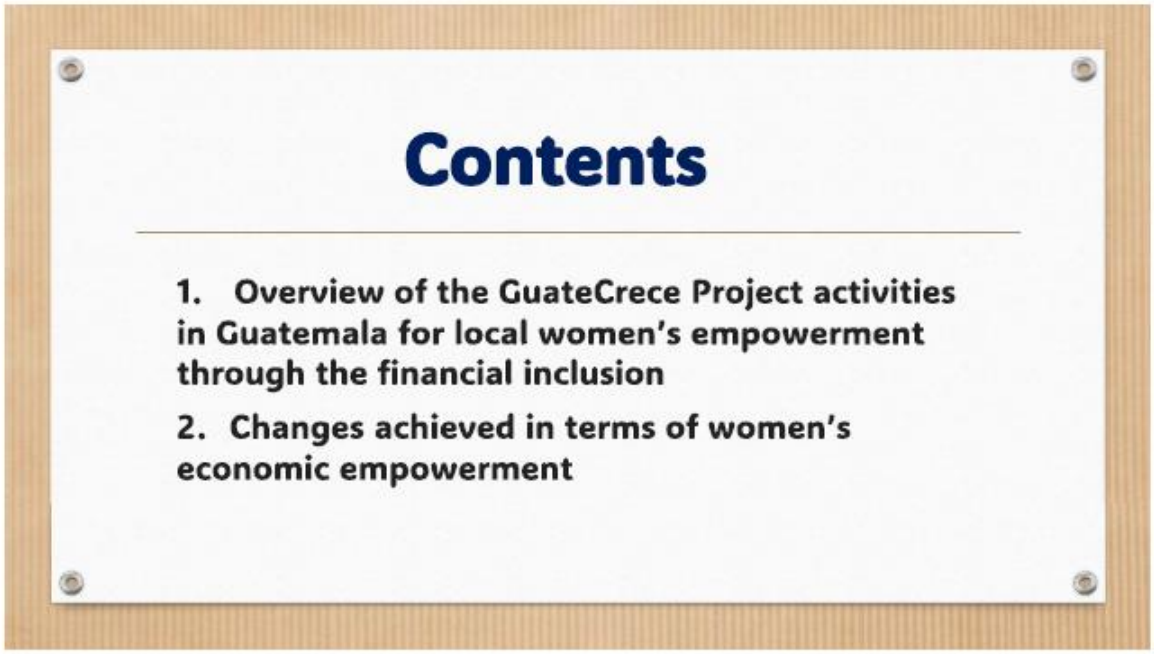
Multisectoral Poverty and Women

- The experiences of women in times of economic hardship need to be also recognized and recorded. It might be more useful to add some dimensions and indicators to the Multidimensional poverty index to capture a closer picture of the specific types of deprivation that women undergo. The MPI has been able to bring out the poverty levels of children under four years of age, of the elderly over 60 years of age. It should be similarly expanded to estimate the poverty dimensions of women as well.

- THANK YOU.

３． 塚本明広

Women's Economic Empowerment through Financial Inclusion in Guatemala
(GuateCrece Project Case)
https://www.google.com/maps
Akihiro Tsukamoto,
Engaged as the Advisor for Financial Inclusion Promotion with Immigrant Remittance in Guatemala, for JICA (Japan Internacional Cooperation Agency)
GuateCrece

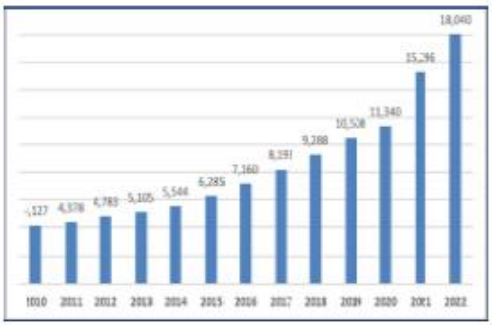

Contents
1. Overview of the GuateCrece Project activities in Guatemala for local women's empowerment through the financial inclusion
2. Changes achieved in terms of women's economic empowerment

1. Overview of the Project activities in Guatemala for local women's empowerment through the financial inclusion

Current situation in Guatemala (1)
Increase of family remittance

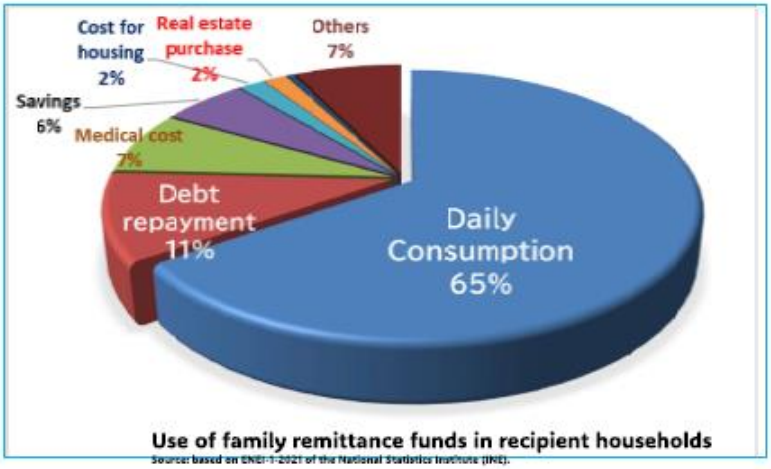
- In rural areas of Guatemala, economic opportunities are limited, especially for women.
- Many Guatemalans are trying to get to the USA in search of better economic opportunities.
- Those who live and work in USA send the international remittance to the family living in Guatemala. The total amount of such family remittance fund represents about 20% of GDP.

People trying to get to USA
Source : https://www.youtube.com/watch?v=z2ouXuQnQo



Total amount of family remittance funds
Source: based on the information of Central Bank of Guatemala

Current situation in Guatemala (2)
Use of International Remittance Funds



Most of family remittance fund have been "not" spent for investment in economic activities but for daily consumption.

Our challenge

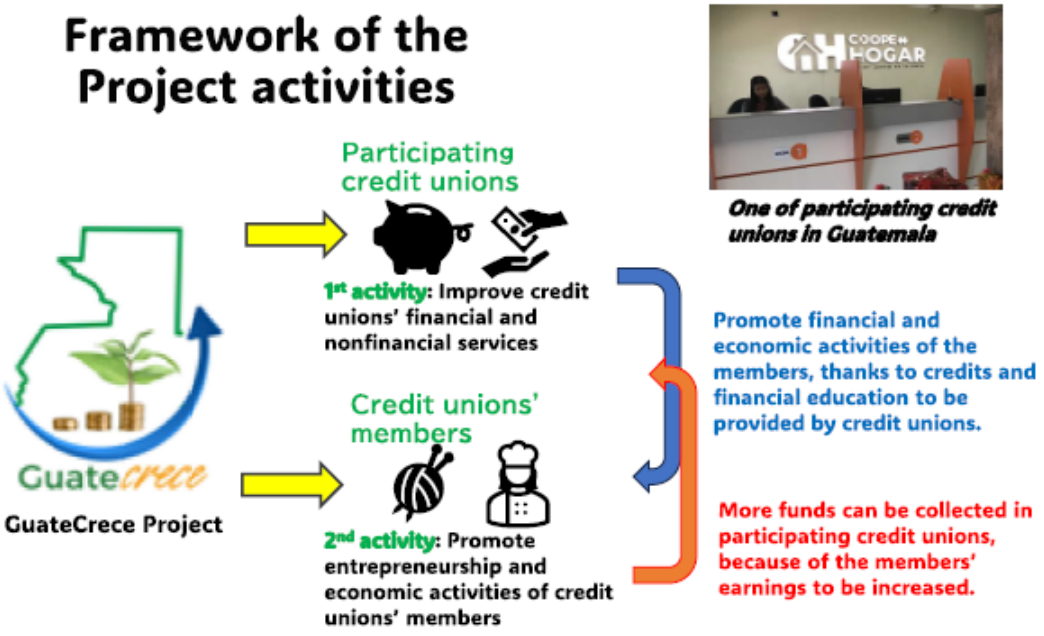
How can we increase economic opportunities in Guatemala?

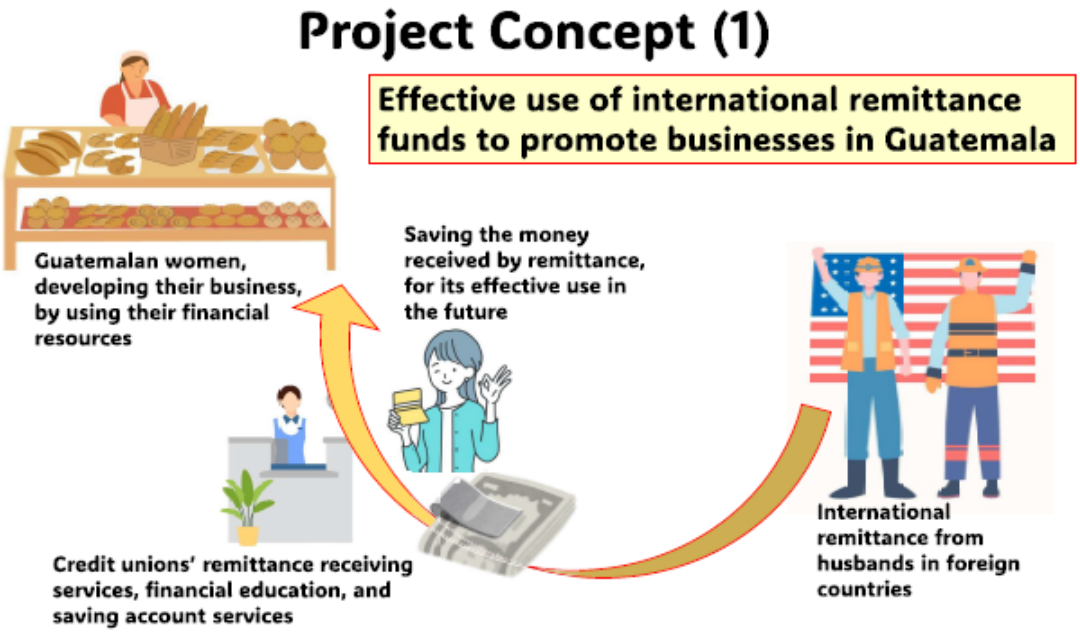
GuateCrece Project is carried out by the National Institute of Cooperatives (INCAOP) of Guatemalan government, with technical assistance of Japan International Agency (JICA).

Guatemala Crece con
(Guatemala growing with)

- **Remesa familiar (eficiente use of family remittance)**
- **Cultura de ahorro (savings culture, and)**
- **Emprendimiento (entrepreneurship)**

Guatecrece


Framework of the Project activities
Participating credit unions
1st activity: Improve credit unions' financial and nonfinancial services
Credit unions' members
2nd activity: Promote entrepreneurship and economic activities of credit unions' members
Guatecrece
GuateCrece Project
One of participating credit unions in Guatemala
Promote financial and economic activities of the members, thanks to credits and financial education to be provided by credit unions.
More funds can be collected in participating credit unions, because of the members' earnings to be increased.


Project Concept (1)
Effective use of international remittance funds to promote businesses in Guatemala
Guatemalan women, developing their business, by using their financial resources
Saving the money received by remittance, for its effective use in the future
International remittance from husbands in foreign countries
Credit unions' remittance receiving services, financial education, and saving account services

Project Concept (2)

Enhanced financing for local businesses with a view to sustainable local economic development

Activities of the Project for improving nonfinancial services of participating cooperatives (credit unions)

Participating cooperatives (credit unions) have improved their nonfinancial services, starting the provision of the following services

- **Financial education**
- **Training for promoting entrepreneurship (vocational training, training on how to prepare business plan, etc.)**

Financial education

New Vegetable Cultivation

Vocational training to promote women's entrepreneurship

Use of Information Technology for promoting women's businesses

Digital marketing trainings for young people, mainly women, participating in "Puentes" project organized by **United States Agency for International Development (USAID)** and **World Vision**

Use of SNS for marketing activities

Coverage of the application of the GuateCrece Project

GuateCrece Project's concept and methods have already been applied by approximately 40 cooperatives, benefiting almost 10,000 people directly or indirectly in the year of 2023.

(9,694 associates in total)

2. Changes achieved in terms of women's economic empowerment

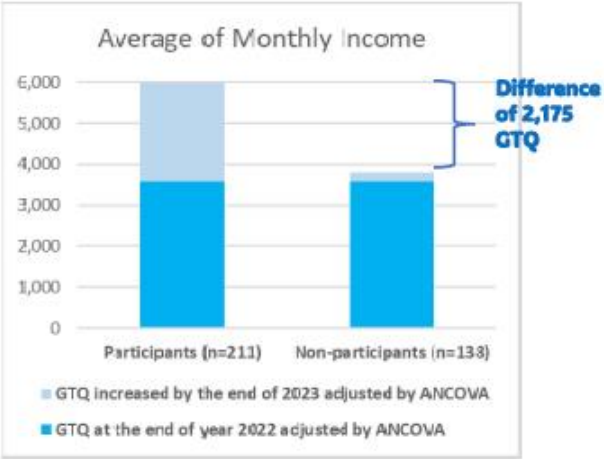
Women entrepreneurship

Trainings

Women who have started new business

Several women have developed their own business, by utilizing the knowledge learned from the training courses in which they participated.

Increase in monthly income of participating cooperatives' (credit unions') members

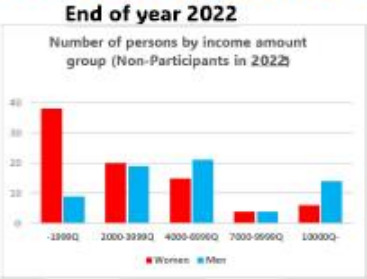


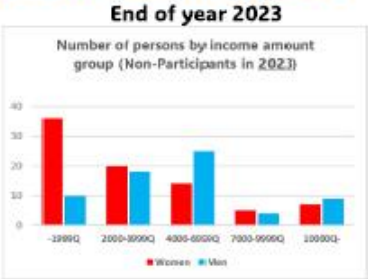
- **The GuateCrece Model has resulted in an increase of 2,175 GTQ per cooperative member, in terms of monthly income. This increase has been caused by the newly developed economic activities of the participants.**
- **The impact is larger for women than for men. (Effect size for men = 0.192, Effect size for women = 0.212)**

Changes in monthly income of cooperatives' members

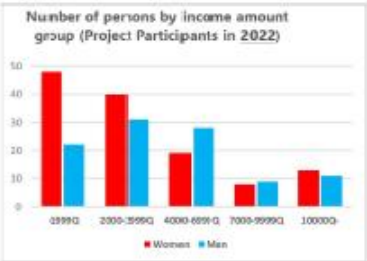
End of year 2022 | **End of year 2023**

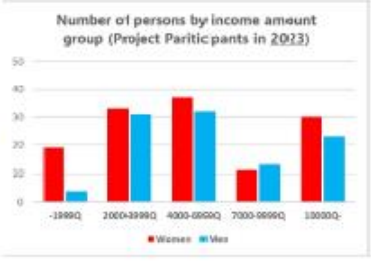
Non-participants





Participants





The positive impact is the largest in young women group.

Age & Gender	Participación en el Modelo GuateCrece	n	% who have developed new economic activity	% who have increased income by more than 20%	% who have increased savings in the account by more than 20%
Women 20s-30s	**Participants**	75	48.0%	48.0%	52.0%
	Non-Participantes	43	20.9%	20.9%	25.6%
Women 40s-50s	**Participants**	43	51.2%	46.5%	14.0%
	Non-Participantes	48	47.4%	39.5%	31.6%
Men 20s-30s	**Participants**	62	50.0%	50.0%	30.6%
	Non-Participantes	34	35.3%	20.6%	23.5%
Men 40s-50s	**Participants**	28	53.6%	57.1%	17.9%
	Non-Participantes	26	34.6%	26.9%	38.5%

A woman's successful case

- **She had only completed the basic education.**
- **She receives international family remittance from her husband, at the local credit union, which is located near by her house.**
- **By using the fund provided by her husband and credit granted by the credit union, she has been able to develop and expand her business on garment, taking in advantage of having participated in vocational training about it.**

Theory of change (Women empowerment)

Achieve economic empowerment

↑

Earn money by starting the microbusiness ← • Credit for expanding the business

↑

Use their money strategically ← • Financial education • Trainings on entrepreneurship

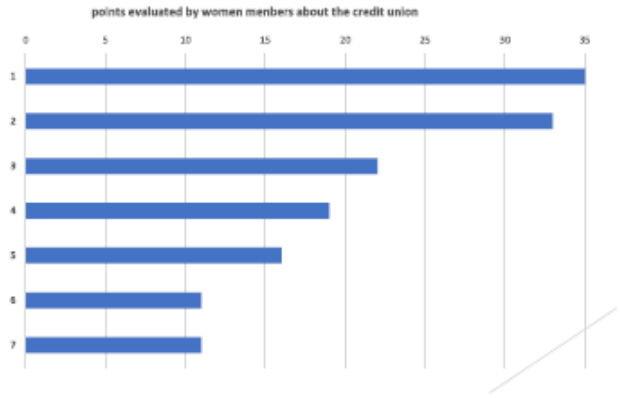
↑

Have their own money through deposits or remittances ← • Remittance receipt service • Savings

Conclusion (1)

Importance of Credit Unions for local development

- Credit unions can be important instrument for women's economic empowerment. Because credit unions are more familiar for local people than banks.
- Women members evaluate positively financial and nonfinancial services of credit unions, in terms of gender equality.



Guatecrece

Conclusion (2)
Utilization of international experience

The Project's positive effects have been increased, thanks to;

- Collaboration with "Puentes" Project organized by USAID and World Vision, and
- Applying lessons learned from experiences developed in Honduras

Trainings on how to form a cooperative, for young people, mainly women, participating in "Puentes" project organized by United States Agency for International Development (USAID) and World Vision

Financial education realized in Honduras as an activity of the Project named as "ACTIVO" by the Japanese technical assistance

Thank you!

Guatecrece

参加者とアンケートの結果

登録者数　213 名

＜登録者のプロフィール＞

Country：日本=49%

所属：NGO/NPO=55%

Gender：Woman=91%

年齢層： 60 以上＝36% 30～59=41% 30 未満＝23%

参加者数

参加者　118 名（パネリストおよびスタッフ計 15 名を除く）

参加者のアクセス場所

日本 62 名、United States 34 名（うち 26 名は日本人名）、United Kingdom 10 名

その他：Austria、 Netherlands、Canada、Korea、Lebanon、Mexico、Nigeria、Sierra Leone、South Africa

アンケート

回答数　31 名

＜回答者のプロフィール＞

Country：日本=81%　その他：UK、Canada、USA、Nigeria

所属：NGO/NPO=68%

＜回答サマリー＞

1. Overall, how would you rate this side event? (Single Choice)

   Very good=19　Good=10　Fair=1　Not good=1

   *Not good と回答した 1 名は registration がうまくいかなかったため。

2. What did you like most about our event program?

3. Feel free to provide feedback or ask questions

   様々な国の事例を聴くことができた=12

   特にグアテマラの事例を聴く機会はあまりない＝3

   充実した QA 時間があり、モデレーターがすばらしい＝8

＜その他のコメント＞

- measure poverty in a rich country については、以下を参照
  https://www.atd-quartmonde.org/wp-content/uploads/2019/12/Hidden-Dimensions-of-Poverty-20-11-2019.pdf
- Can you help our NGO to access Funding for a project (in Nigeria)?
- See IMF data re GDP impacts of Domestic Violence etc.

NGO 3 団体の概要

JAWW（日本女性監視機構）

◆ 英語表記 JAWW: Japan Women's Watch

◆ 設立 2001（平成 13）年 2 月 18 日

◆ 連絡先：〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-7-7-1103, HP www.jaww.info / office@jaww.info

◆ 目的と主な活動―①「北京行動綱領」と「2000 年国連総会（北京+5）成果文書」等の実施状況を監視し推進する ②APWW（Asia Pacific Women`s Watch アジア太平洋女性監視機構）と連携し、国内外でジェンダー平等と女性と女児のエンパワーメントを推進する

活動―①APWW への参加、②NGO レポートの作成、③国連女性の地位委員会（CSW）等の国連の会議への参加、④アドボカシー活動、⑤勉強会、情報交換、情報発信

◆ 会員数 （2020 年現在） 個人会員：約 80 名 団体会員： 3 団体

国連 NGO 国内女性委員会

◆ 英語表記: THE NATIONAL WOMEN'S COMMITTEE OF THE UNITED NATIONS NGOs

◆ 所在地・連絡先：住所 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-21-11 婦選会館内 電話 03-3370-0238, FAX 03-5388-4633, https://un-ngojpwomen.org

◆ 創立：1957（昭和 32）年 8 月 1 日

◆ 目的と主な活動： 国連憲章に示されている平和と人権尊重の目的実現のため国連及び国連関係諸機関に協力、必要に応じ政府に意見を表明・要望する。 国連総会第 3 委員会に一般市民の女性の参画を実現するため候補者を選考し、政府代表団の一員として外務省へ推薦する。毎年国連総会報告会を聞き国連の動きを一般に知らせ、国連および国連会議への女性の進出に努力する。

◆ 加盟団体： 7 団体

国際婦人年連絡会

◆ 英語表記：International Women's Year Liaison Group <IWYLG>

◆ 所在地・連絡先：〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-21-11 婦選会館内 電話 03-3370-0238 FAX 03-5388-4633/ Email iwylg-i@nifty.com / HP http://iwylg-jp.com/

◆ 創立 1975（昭和 50）年 12 月 1 日

◆ 目的と主な活動： 目的―平等・開発・平和をめざし全国組織の NGO 女性 41 団体による「国際婦人年日本大会」（1975 年）で採択した大会決議および民間行動目標の実現を図る 活動―女性の地位向上・ジェンダー平等問題を中心とする情報収集、学習、意見交換を踏まえ、一致した事項について、国会、政府、政党、関係機関等に解決に向けて働きかけを行う。 5 年ごとに NGO 日本女性大会を開き、活動の評価を行い、目標を立てる。

◆ 加盟団体：全国組織 33 団体

『全国組織女性団体名簿 2020』に基づき作成

実施の記録

2023 年

9 月 12 日 第一回 3 団体会合@Zoom

【要望書について】

・＜CSW68 政府代表団への参加要望書＞および＜サイドイベント共催の要望書＞の内容、提出時期、方法について

【サイドイベントについて】

・テーマおよび内容に関する決定プロセスの確認。

・開催形式についての提案と検討。

9 月 22 日　外務省総合外交政策局女性参画推進室長 古本建彦氏との面会

・第 78 回国連総会代表顧問歓送会（国連 NGO 国内女性委員会主催）時に担当団体として挨拶（浅野、小林、石川）

11 月 9 日 第二回 3 団体会合

・サイドイベント開催形式について協議の結果、JAWW の結論を決定とすることで合意。

・テーマについてのブレーンストーミングおよびコーディネーターの検討　→CSW68 の優先テーマに沿い、JAWW で企画書案を作成する。

・サイドイベントのバックアップとしてのパラレルイベント　→申込みはしない。

・要望書は二通とし、一通目はサイドイベント共催の要望、二通目は政府代表団に NGO 代表およびユース代表を入れることの要望とする。ユース代表については経済的支援が必要であることを書き添える。→　後日、押印不要を確認。

12 月 25 日　外務省へ二通の要望書を提出（3 団体から計 5 名が外務省を訪問）（鷲見、布柴、浅野、小林、石川）

2024 年

1 月 15 日 第三回 3 団体会合@Zoom

【進捗状況報告】

・開催形式は Web による開催とし Zoom のウェビナーを使用する。

・コーディネーターは岡山大学の山本由美子さんが受けてくださった。

・登壇者は 3 名（未定を含む）を予定。

【外務省からの回答】

・NGO 代表が CSW 会期途中で帰国することについては問題ない。

・ユース代表候補の選出期限については問い合わせ中

【その他】

・NGO 代表を JAWW から推薦することについて　→承認

・現地参加のメンバーの確認

・東京ステーションの設置　→承認

・録画　→　後日決定

・ロジスティクス担当者ミーティング　→開催予定

1 月 21 日 外務省への問合せと連絡

・ユース代表推薦に備えて、応募者の具体的要件を照会

・NGO 代表に JAWW 副代表鴨澤小織さんを推薦することおよびプロフィールの送付

・国連代表部による NGO ブリーフィングの日程と場所について、開催希望日を伝える。

1 月 31 日 外務省への連絡ほか

・外務省を通し国連代表部に CSW の Web のサイドイベントのカレンダーへの掲載を依頼。コンセプトノートと企画書を提出。

・サイドイベントで国連代表部のご挨拶を依頼。チラシに掲載することを伝える。

・ユースを派遣する団体のユース代表推薦書類をとりまとめて提出。

1 月 31 日 第一回 3 NGO ロジスティクス担当者ミーティング

・サイドイベントに関する進捗報告―日程（3 月 15 日 21 時（日本時間）開始)、登壇者、テーマ、共催団体、Zoom のウェビナーを使用すること、タイムテーブル、今後の作業（アンケートとバーチャル背景の作成、当日役割の洗い出しと担当―の確認と決定。

・サイドイベントの広報の検討―フライヤーの完成と広報開始予定を 2 月 15 日とする。フライヤーは英語版のみ作成、国内広報には簡便な日本語版をつけて周知、海外向けは JAWW の Web 記載の英文を各 NGO から発信する。

・オンライン実施のための東京ステーション設置に関する作業（大学女性協会東京事務所の借用申込み、集合・撤収時間など）についての話し合い。接続テストとリハーサルについては今後決める。

・ユース代表の推薦名簿を 1 月 30 日の締切日に外務省に提出したこと、現地参加者名簿の締切りは 2 月 23 日で受付を開始していることを報告。JAWW 直前勉強会の開催の予告。

2 月 2 日 外務省へ CSW68 ゼロドラフトへの NGO からのインプットの受付について問合せる。

・2 月 7 日、提出先（日本代表宛とし外務省に同送すること）および締切り（2 月 13 日午前 10 時）についての連絡あり。直ちにいくつかの ML に送信。

2 月 2 日 外務省より NGO 代表に鴨澤小織さんが正式決定したこと、NGO 代表とユース代表には本年から diplomat パスを支給することが決定したとの連絡あり。

2 月 8 日 外務省よりユース代表に鈴木りゆかさん（日本 BPW 連合会推薦）を選出したとの連絡あり。

2 月 13 日 CSW68 ゼロドラフトへのインプットを大崎さんと外務省に提出

2 月 13 日 外務省よりサイドイベントでのご挨拶が山中修大使（国際連合日本政府代表部次席常駐代表）に決定した旨の連絡あり

2 月 13 日 外務省にサイドイベントのコンセプトノートを提出、その後 2 月 16 日には日本語の企画書の提出の要請があり再度提出

2 月 16 日 外務省にフライヤー最終版を提出。サイドイベントカレンダーにコンセプトノート、フライヤー、参加申込の掲載を依頼

2 月 21 日 第二回 3 NGO ロジスティクス担当者ミーティング

・外務省にサイドイベントカレンダーへの掲載を依頼中であることを報告。

・サイドイベントプログラムとタイムテーブル（案）の確認。

・イベントマニュアルを作成し、サイドイベントの事前・当日・事後の仕事内容とそれぞれの担当（者）を確認。

・3 月 13 日 20 時から接続テストを実施すること、プログラム順にリハーサルすることを確認。

2 月 22 日　外務省より、コンセプトノートとフライヤーについて決裁がとれた旨の連絡あり、サイドイベントの広報を開始

2 月 22 日　サイドイベント登壇者の事前ミーティングの実施

3 月 4 日　CSW68 直前勉強会で山本さんがサイドイベントについて紹介

3 月 6 日　外務省より NGO ブリーフィングの詳細についての連絡あり、参加者に通知。

3 月 7 日　内閣府男女共同参画局「第 68 回国連女性の地位委員会（CSW）等について聞く会」に JAWW 浅野万里子代表が登壇し、「サイドイベントの紹介等」をした。

3 月 13 日　3 NGO ロジスティクスメンバーが接続テストを実施（内容は上記）

3 月 15 日　3 NGO および国連日本政府代表部共催 CSW68 サイドイベント開催

（予定）

CSW68 サイドイベント報告書の作成と外務省への提出

第四回 3 団体会合の開催（次回に向けての課題確認と引継ぎ）

CSW68 報告会の開催（主催：JAWW、共催：城西国際大学大学院女性学専攻、
協力：国連 NGO 国内女性委員会・国際婦人年連絡会）

おわりに

CSW68 のサイドイベントの実施および報告書の作成にあたり、多くの方にお世話になりました。先ず、岡山大学 大学院社会文化科学研究科准教授であり、CSW68 専門家会合の委員でもある山本由美子さんに、モデレーターをお引き受けくださったことを感謝申し上げます。素晴らしい進行のおかげで、参加者からも多くの意見がでて大変活発なセッションになりました。

松元ちえさん、セパリ・コッテゴダさん、塚本明広さんの 3 人のパネリストの方々には、ご多忙のなかご登壇のお引き受け下さり、ご自分の経験に基づいてお話し下さったことに心から感謝申し上げます。皆様の報告のおかげで、幅広い視点から CSW68 のテーマを考えることができました。3 人のパネリストの方には、準備から報告書の作成に至るまでさまざまなお願いをしました。例えば、オンラインの接続に備えて事前に録画したものをお送りいただくなどのお願いもしましたが、皆様、ご理解くださりご協力下さいました。ほんとうに有難うございました。

特に塚本さんは、グアテマラから現地時間の早朝 6 時からのご参加でしたが、JICA グアテマラ事務所のご協力で安定的なネット環境でつながるようにご準備下さいました。JICA グアテマラ事務所の皆様に心よりお礼申し上げます。また、JICA ガバナンス・平和構築部ジェンダー平等・貧困削減推進室長　溝江恵子さんに、塚本さんの参加を可能にして下さいましたことにお礼申し上げます。お陰様で、日本の国際協力を通じて、グアテマラの女性のエンパワーメントのための興味深いプロジェクトを展開していることを広く紹介することができました。

報告書作成にあたっては若い方々が力になってくださいました。大学女性協会(JAUW)から CSW68 に参加された、横山浩花さんと吉原佐保さんは、理事の鈴木千鶴子さんのご指導のもと、セパリ・コッテゴダさんの報告要約を作成してくださいました。お陰様で、スリランカのお話を日本語で読むことができます。また、JAWW のユースレポーターとして参加した千葉奏美さんと山内彩さんは、副代表の鴨澤さんの助言を受けながら Q&A 部分のメモを作成して下さいました。いろいろな分野の質問が飛び交う中でメモ作成はどんなにか大変だったことでしょう。お二人のメモはサイドイベントのまとめの参考にさせていただきました。

CSW のサイドイベントはこれまでも国連代表部と 3 NGO が共催してきましたが、JAWW が CSW68 の担当団体としてサイドイベントを無事実施できたのは、共催者みなさまのご協力のお蔭です。特に、外務省女性参画推進室の皆様には、国連代表部との連絡の窓口として、あれこれご相談、お願いし、大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。また、 3 NGO の皆様には、これまでの運営のご経験を踏まえて、いろいろな場面で助けていただきました。特に、大学女性協会の皆様は、イベントの終了が日本時間の夜 10 時半という遅い時間だったにもかかわらず、事務所を使わせてくださり、安心してオンラインの運営ができました。おわりに、最も幸運だったのは、セッション中、オンライン接続が順調で、事前録画を使わないで済んだことです。

皆様、本当に有難うございました。来年の CSW69 は北京+30 です。頑張りましょう。

2024 年 4 月 19 日　JAWW（日本女性監視機構）

CSW68 サイドイベント報告書

発行　　2024 年 4 月 19 日
編集責任　　JAWW（日本女性監視機構）
連絡先　　office@jaww.info